

研究・調査報告書

報告書番号	担当
478	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and risk of coronary heart disease among Chinese men. 中国人男性における飲酒と冠動脈疾患リスクについて	
執筆者	
Bazzano LA, Gu D, Reynolds K, Chen J, Wu X, Chen CS, Duan X, Chen J, He J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Cardiol. 2009 Jun 12;135(1):78-85	
キーワード	
飲酒、心筋梗塞後、予後、中国人男性、前向き研究	
要 旨	
目的： 観察研究の結果、適量飲酒は心筋梗塞および冠動脈疾患のリスクを低下させることが示唆されているが、そのほとんどは西洋諸国における研究である。	
方法： 追跡開始時に冠動脈疾患のない 40 歳以上の中国人男性 64,597 人を対象とした前向きコホート研究を実施した。1991 年の追跡開始時に標準化されたプロトコルを用いて飲酒状況について調査した。追跡調査は 1999-2000 年に行った。94%において追跡可能であった。	
結果： 494,084 人年の追跡期間中 725 人の心筋梗塞発症 (内 361 人は死亡例)と 976 人の冠動脈疾患発症 (内 588 人は死亡例)があった。地域毎にデータ収集したため地域毎に層別化し、さらに年齢、教育水準、身体活動度、喫煙状況、BMI、収縮期血圧、都会か田舎か、地域が北部か南部か、糖尿病の有無について調整して解析した。その結果、非飲酒者を基準としたとき週に 1～6 飲酒単位の参加者の心筋梗塞相対危険度は 0.93 (95%信頼区間:0.70-1.24)、7～34 飲酒単位では 0.66 (0.54-0.82)、35 飲酒単位以上では 0.58 (0.41-0.81) となり、傾向 P は<0.0001 であった。同様の冠動脈疾患相対危険度は 0.99 (0.77-1.27)、0.67 (0.56-0.81)、0.58 (0.44-0.78)であり、傾向 P は<0.0001 であった。	
結論： 中年中国人男性において飲酒は心筋梗塞および冠動脈疾患リスクを低下させる。しかし過量飲酒は他の死亡を増加させるので本研究結果の適用には注意する必要がある。	